

先週と今週（12月28日から1月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週および今週のインターバンク市場は、地銀業態を中心に堅調な資金調達意欲が見られた。無担保コールO/N加重平均レートは、概ね▲0.01%台後半での出会いとなった。年末の12月30日はビッドが減少したことでレートが低下したものの、▲0.033%と、例年と比べると低下幅は限定的であった。無担保コールO/N物は、各業態の調達スタンスにはほとんど変化が見られず、地銀業態から▲0.02～▲0.01%、大手行から▲0.04～▲0.035%の出会いが中心となる展開が連日続いた。週末の8日は取り上がる先が見られたため、ややレート水準が上昇し、▲0.04～▲0.008%が出会いの中心となった。ターム物は、1～2W物を中心に▲0.015～▲0.01%の水準で引き合いが見られた。年明けの日銀当座預金残高は、490兆円台前半で始まったものの、6日の国庫短期証券の発行超や法人税・年金保険料揚げの影響で減少し、以降は490兆円前後で推移した。

●レポ市場

先週から今週の債券レポ市場は、投資家のオファーニーズが旺盛にみられ、業者の在庫は少なかったものの、レートは概ね高めで推移した。

12月28日のT/Nは▲0.085～▲0.08%の出会い。翌29日のT/Nは年末越えの受渡となったものの、極端にレートが動くこともなく▲0.09～▲0.08%の出会い。その後も引き続き同水準の出会いが続いたものの、1月6日には短国買入オペが入ったことで、業者のビッドニーズが厚くなり、▲0.08%から低下し、▲0.10%まで低下した。翌日以降は再びレートが若干上昇し、▲0.08%前後の出会いとなった。SCについては5y140～145、10y354～360、20y169～174、30y66～68、40y13にビッドが多くみられた。

●短国市場

先週28日～30日の短国市場は、年末年始の休みを控え、動意なく閑散なマーケットとなった。今週の短国市場は、相次ぐ入札による需給悪化懸念などから慎重姿勢が強まる中、年末に比べやや軟調な推移となった。3M物は▲0.090～▲0.080%、6M物は▲0.090%近辺で出会い、一方で1Y物は特段の出会いは見られなかった。

5日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.090～▲0.085%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0861%、按分落札利回▲0.0820%と、やや軟調な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.083%出合いで推移した。

6日に実施された短国買入オペは、10,000億円でオファーされた。オファー自体がやや予想外であった。平均落札利回較差+0.003%、按分落札利回較差+0.002%と、若干弱めの結果となった。

7日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.083～▲0.080%での出会いが見られたものの、平均落札利回▲0.0886%、按分落札利回▲0.0866%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.092～▲0.090%出合いと、やや堅調に推移した。

8日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.094～▲0.087%と強めの出会いが見られたものの、平均落札利回▲0.0883%、按分落札利回▲0.0851%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、概ね入札と同水準で推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額3,000億円程度に対して、発行総額は1兆円程度と大幅な発行超となった。年が明けたことで、期末に残高を落とした卸売・鉄鋼・機械等の幅広い業態から大型発行が連日行われ、活況なマーケットとなった。市場残高は昨年末に約23.5兆円まで落ち込んだものの、足元では約24.5兆円まで増加している。CP等買切オペ・新型コロナオペの強力な資金繰り支援を背景に、買い手サイドの玉確保ニーズは引き続き底堅い。足許のレートは、1,000億円程度の大型発行では0%程度で決着する一方で、発行頻度が低く金額の小さい希少銘柄では、過去最低のマイナスを更新し続けている。なお、1月7日に緊急事態宣言が再発令されたが、このことによるレートへの影響は見られていない。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/28 (月)	26,854.03	0.015	103.60	△ 0.019	△ 0.081	4,956,200
12/29 (火)	27,568.15	0.020	103.79	△ 0.019	△ 0.079	4,946,400
12/30 (水)	27,444.17	0.020	103.47	△ 0.033	△ 0.077	4,942,300
12/31 (木)						
1/1 (金)						
1/4 (月)	27,258.38	0.020	103.08	△ 0.018	△ 0.078	4,932,500
1/5 (火)	27,158.63	0.010	103.14	△ 0.019	△ 0.076	4,934,500
1/6 (水)	27,055.94	0.025	102.80	△ 0.018	△ 0.077	4,896,800
1/7 (木)	27,490.13	0.035	102.99	△ 0.018	△ 0.085	4,890,500
1/8 (金)	28,139.03	0.035	103.83	△ 0.016	△ 0.077	4,895,000

来週（1月12日から1月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
1/11 (月)	成人の日				
1/12 (火)	12月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 11月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)				
1/13 (水)	12月のマネーストック(日銀 8:50) 11月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	5Y 25,000億円 1/14発行	交付税借入 10,000億円 1/22借入		米ページブック 12月の米財政収支 12月の米消費者物価指数
1/14 (木)	11月の機械受注統計(内閣府 8:50) 12月の企業物価指数(日銀 8:50)				
1/15 (金)	11月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB3M 67,000億円 1/18発行	流動性供給 5,000億円 1/18発行	交付税借入 10,000億円 1/26借入	11月の米企業在庫 12月の米生産者物価指数 12月の米小売売上高 12月の米鉱工業生産・設備稼働率 1月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/11 (月)	成人の日								
1/12 (火)	2,300	▲ 35,400	▲ 33,100	CP買入 国債補完	▲ 500 200		▲ 300	▲ 33,400	TB3M発行▲73000償還68700 TB6M発行▲38000償還15100 30Y発行▲9000
1/13 (水)	3,000	0	3,000	全店共通 社債買入	▲ 4,700	3,000	▲ 1,700	1,300	
1/14 (木)	3,000	▲ 34,000	▲ 31,000				0	▲ 31,000	源泉税揚げ 5Y発行▲25000
1/15 (金)	2,000	3,000	5,000				0	5,000	交付税借入▲11000期日11000 個人向け3・5・10Y発行▲3200 償還700
週間合計	10,300	▲ 66,400	▲ 56,100	—	▲ 5,000	3,000	▲ 2,000	▲ 58,100	

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終日に向けた資金調達ニーズがさらに活発化することが見込まれる。無担保コールO/N物加重平均レートは横ばいからやや高めのレートでの推移を予想する。レポ市場は、引き続き資金調達ニーズは厚いことが予想され、GC T/Nは▲0.08%前後の出合いになることが予想される。短国市場は、15日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の需給悪化が懸念される中、レート水準を含め、市場動向が注目される。また、13日に予定されている短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、14日にCP等買入オペが6,000億円で実施予定となっている。発行レートは低下基調となっているものの、前回からのインターバルが比較的長いことから売却ニーズは比較的強いと見込まれ、大きな低下は想定しにくい。

主要なイベントは、13日のページブック、12月の米消費者物価指数などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入